

図書館の窓から


2011.1
No.131



(睦月 稲田亜紀子／画)

【特集記事】

◆私の一冊

新潟県立図書館長 安藤 哲也 さん…………… 3 p

◆新連載 長岡市立図書館の歴史

第1回 明治・大正編…………… 4～5 p

◆としょかんぶらす

英語多読コーナー 新設のコーナーを紹介…………… 7 p

近年、インターネットによる予約が大幅に増えています。希望の書名・著者名が特定できれば、来館して探す手間もなく、画面予約により、後日希望の館で受け取ることができます。現在インターネットによる予約数は全予約数の65%を占め、ここ数年20%



から30%の増加を示しています。

今後、この便利な制度は電子書籍の導入に伴ってさらに進歩します。インターネットを通して電子書籍の貸出・返却が自宅等のパソコンで24時間可能となり、来館の必要がなくなります。現在、全国で唯一東京都千代田区立図書館が実施中です。

一方で、本は絶対に慣れ親しんだ紙に限るという方、来館して書架を眺めながら気に入った本を手取る楽しさを求めている方等、紙書籍を支持する方は

多いとみています。

今後当市の図書館は、電子書籍の普及状況に応じて、電子書籍派と紙書籍派の両者のニーズに耳を傾けながら、どちらにも配慮した適正な資料選択に努め、新しい蔵書構成を目指したいと思います。



文書資料室だより 中越大震災から6年 ～ふるさとに帰って活用を待つ古文書群

平成22年9月19日から21日まで、中越大震災で被災し、文書資料室が一時保管していた山古志地域の古文書等450箱の返還作業を行いました。保管していた浦瀬町倉庫から返還した古文書は、平成17年5月に救出した山古志民俗資料館・山古志中学校寄宿舎の保管資料と、震災以降に所蔵者の依頼により文書資料室が一時保管した被災資料です。

作業には、新潟大学の教官・学生や県内外の博物館・資料保存機関の職員などからなる新潟歴史資料救済ネットワーク(事務局:新潟大学人文学部)のボランティアを含む延べ約100人が参加しました。1日目の運搬作業に続き、2日目には、「第4回山古志の歴史を語る会」(山古志公民館主催)を開催。5年前に



▲保存箱を手渡しで校舎2階へ
(9月19日)



▲種芋原村坂牧家文書が入った保存封筒の内容を確認(9月20日)

行った救出活動を振り返り、震災からの復興に民具や古文書を活用する方策を探りました。

3日目は、古文書の新しい保管場所となった、旧種芋原小学校(平成13年3月廃校)で整理作業を行いました。長岡市資料整理ボランティアや地元の方々も加わって、新潟大学の教官と学生の会話が飛び交う和気あいあいとした整理風景の中に、地域の学び舎で、ふるさとに帰った古文書を保存し、活用していく意義と、その可能性を感じました。

文書資料室では、今後も山古志支所と連携しながら、整理作業を継続して、地域の宝である歴史資料の保存・活用に向けて努力を続けていきたいと考えています。(田中 洋史)



私の一冊

『明治』という国家
司馬 遼太郎／著
日本放送出版協会

新潟県立図書館長

安藤 哲也 さん

先日、長岡高校の創立記念日に生徒さんたちに話をする機会がありました。何を話せばいいのか、あれこれ考えた結果、長岡高校の前身は、なぜ明治5年の「長岡洋学校」なのか、米百俵の「国漢学校」はなぜ前身ではないのか、という近代長岡出版の謎解きのようなことをしてみることにしました。私の解釈では、「洋学校は近代明治建設のための学校、国漢学校は旧長岡藩復興のための学校」なのです。しかし、何の反応も返ってこなくて、いまの若者たちが、そういう郷土の歴史的なことをどう捉えているのか、少し、心に引っ掛かるものが残りました。

私が、「明治」という近代国家のことに興味を持ったのは高校生のころだったように思います。その後の大学や大学院では、およそ飯のタネにならない

政治思想史という学問を少しかじり、河井継之助をどうにか日本の歴史の中に位置づけようと試みたのですが、結局、40歳代半ば頃になって、ようやく一冊の本をまとめたのを最後に、その後の思考回路は止まったままです。この過程で得た私の結論は、河井はあくまでも幕末動乱の時代を模索した人であって、けっして近代明治国家をつくった人ではなかったという、私にとっては予期していなかった事実です。

私が長く関心を持ち続けている「明治という国家」と全く同名の本があります。司馬遼太郎さんの本です。NHKドラマ「坂の上の雲」の原作のひとつにもなっています。エッセイの文体ではありますが、型にハマった学術論文では真似のできない、歴史の本質を分かりやすく解説してくれる内容です。

この司馬さんの本の最初の章には「明治は、リアリズムの時代でした。それも、透きとおった、格調の高い精神でささえられたリアリズムでした。」というくだりがあります。私は司馬さんが提示したこの1行の文章をととても気に入っています。義とか愛とかいう歴史ドラマのテーマもけっして否定しませんが、それとはかなり違う次元です。「リアリズム」。難しい概念ですが、冷静に真実を見据える眼ということです。

思うに、戊辰戦争で大敗北を喫した明治の長岡が見事に復興できたのも、この明治の清廉なリアリズムに支えられたおかげですし、いまの閉塞感漂う時代においてだって、感情に流されず、何事も透きとおったリアリズムの精神で臨まなければ、という思いに強く駆られることがしばしばあります。

●● あんどう てつや ●●

- ・昭和28年生まれ
- ・長岡市出身
- ・新潟県立図書館長
- ・著書に『吏に生きた男河井継之助』（新潟日報事業社刊）がある。
- ・長岡地域振興局の部長在職中に地域文化誌「ながおか文の林」を企画編集



長岡市立図書館の歴史 第1回 明治・大正編

長岡市立図書館は2018年に創立100周年を迎えます。「図書館の窓から」では、年に1度、8回にわたって「長岡市立図書館の歴史」と題し、長岡市の図書館の歴史をひも解いていく特集を連載します。長岡の図書館が見てきた1世紀とは一。今、歴史の扉が開かれます。

明治18 (1885)	小金井権三郎・土屋哲三・長尾平蔵らが発案し、大蔵省など官界で活躍していた小林雄七郎（虎三郎の弟）の賛助を得て組織した友共社（読書団体）の読書活動が始まる
明治37	9月、市内有志の社交クラブである長岡俱樂部が、日露戦争の勝利を記念して、戦勝記念私立長岡図書館の創設を決める
明治38	戦勝記念私立長岡図書館が友共社を合併する
明治42	5月、長岡市教育会は、会の事業として図書館を経営することを決定し、戦勝記念私立長岡図書館からすべての図書と運営のための基本金として宝田石油の新株10株を譲渡される
明治43	5月、長岡市教育会は、 <u>図書館の経営方針 a</u> を決定する。表四ノ町の書肆店経営者目黒十郎から、亡父の遺志であった巡回文庫の運営を依頼され古志・三島・南蒲原郡内の16か村を巡回して閲覧できるようにした。書籍代500円、維持資金150円、文庫用箱15個分41円15銭を提供される
大正4 (1915)	10月11日、 <u>野本恭八郎</u> が図書館互尊文庫の建設と寄附を、市に申し出る <u>b</u> 。大正天皇即位を祝う記念事業として、長岡市に互尊文庫創設基金並びに維持費として、日本石油株式会社の払込済株式壱千株を添えて提出
大正5	5月、市の中央の <u>東坂之上1丁目 c</u> を購入することに決定し、野本の承認を得て同月27日互尊文庫設置願を県に申請、翌6月14日認可された。（寄附の額は野本全財産の3分の1を投じたもの）大正5年9月起工、翌6年11月竣工、 <u>高頭仁兵衛</u> の18,800冊をはじめ十数氏の図書寄贈申出あり。開館当時の蔵書数 30,708冊
大正6	4月、長岡市長河島良温館長事務取扱、5月文学士高野正治が司書となり開館事務にあたる
大正7 (1918)	1月10日、新聞閲覧室、児童室開館 2月12日、紀元節に市民館内縦覧 4月1日、普通閲覧室開館 6月8日、開館式 徳川頼倫日本図書館協会総裁、和田日本図書館協会会長参列 【以後、6月8日が創立記念日となる】 7月1日、互尊文庫館則を制定 9月21日、館外貸出実施
大正8	7月、閑院宮殿下、本館に台臨 12月、新聞閲覧室、児童室を開く 4月1日、一般閲覧開始
大正13	11月、児童お話し会を創設

a ①図書館は毎日曜日の午前9時から午後4時まで、長岡市坂ノ上町1丁目の長岡鉱業所内の角で開館する。②図書館には主事1名と幹事2名を置く。③図書の閲覧は無料とする。など。
しかし、開館日が日曜日だけということもあり、次第に開館日数、閲覧者数ともに激減していきました。

b 提出された「大正記念互尊文庫創設費・維持費寄付及経営願い」には8項目にわたって要望が記されていました。①日本石油株600株（時価69,600円）を互尊文庫の創設費に充てる。②日本石油株400株（時価46,400円）を文庫維持の経費に充て、不足分は市が負担して支出する。③工事は大正7年4月までに完了し、長岡市立として毎年相当の経費を支出し、着実に経営する。④互尊文庫の敷地は800坪以上で、交通便利な場所を買収し、周囲に緑地を設け、快適な読書環境の場所とする。など。
長岡市議会はこの申し出を満場一致で承認しました。

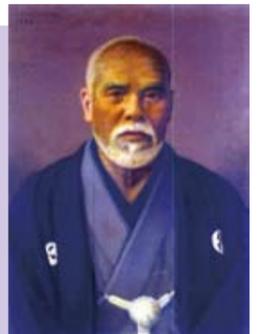
c 初代互尊文庫は、市内中心部にある三島億二郎の邸宅跡地（現在の長岡グランドホテル付近）に建てられました。洋風木造2階建てで、1階には事務室、児童閲覧室、新聞雑誌室などがあり、2階には普通閲覧室、婦人閲覧室、特別閲覧室などが設置されました。総建坪は88坪。他にレンガ造り3階の書庫も建てられました。

創立当時の
互尊文庫



の もと き ょ う は ち ろ う 野本恭八郎 1852~1936

嘉永5年（1852）に刈羽郡横沢村（長岡市横沢町）の、代々上ノ山藩の庄屋職を務めた山口家の4男として生まれました。明治5年（1872）、20歳で長岡商人の野本家に養子に入りました。野本家は「大野本」と称される代々の資産家でしたが、幕末維新期の当主が事業に失敗、家産が傾きかけていました。恭八郎は積極的に商売をすることで立て直し、野本家の資産を拡充させていきました。また、日ごろから教育の大切さを説き、社会教育団体には多額の寄付を惜しみませんでした。



野本恭八郎肖像画
高村真夫 画

明治33年（1900）頃から唱え始めた「互尊独尊」の思想——その理念は、人間として生まれた私たちは、自らを生かすのも、社会が人を生かすのも、自分を大切に、他人を尊ぶ考え方から始まるというものでした。この思想を普及するべく、互尊文庫を長岡市に寄付した恭八郎は、図書館こそが生涯教育の中心であり、自己を研鑽し、社会に奉仕できる人間を創る場であると主張しました。「私は図書館を寄付したのではない。互尊文庫を寄付したのである」という発言からもその真意がうかがえます。本館出入口の柱には、直筆の言葉である「独尊は互尊と知れ、互尊は独尊と覚れ」が刻まれていました。

さらに思想を広めようと、私財全てを注いで日本互尊社を創立した2年後の昭和11年12月、野本互尊翁は85歳の生涯を閉じました。

た か と う に へ え 高頭仁兵衛 1877~1958

明治10年（1877）、三島郡深沢村（長岡市深沢町）の豪農、高頭家の次男として生まれました。片貝高等小学校在学中に初めて弥彦山に登り、その景色に感動、登山に魅了されました。同30年に富士山・苗場山への登山を皮切りに、以後、全国の山岳踏破を開始。同38年に誕生した日本山岳会の発起人としても名を連ね、会の運営に尽くしました。

同39年には、日本初の山岳事典を兼ねた案内書『日本山嶽志』3,000部を自費出版。編さんのために収集した山関連の蔵書を、高頭は町のために願って互尊文庫に寄贈しました。これらの蔵書の中には『北越雪譜』の和本など、貴重なものも多数含まれていましたが、戦災によりすべて焼失しました。

参考文献：『ふるさと長岡の人びと』長岡市編集発行

『長岡市立図書館創立90周年記念誌－図書館の未来に向けて－』
(山田 紀子)

遠山夕雲^{ゆうぐも}は明治17年(1884)、北魚沼郡^{ひう}蕨生村(現小千谷市)の金子家の二男として生まれました。本名は運平^{うんべい}、後に夕焼けの美しさに魅せられ、夕雲を号としました。小学校を主席で卒業(いじめで1年休学)し、13歳で母校の代用教員となりました。

明治30年、浦瀬の^{しど}斯道館に入塾し、同35年に新潟師範学校に入学、学内歌会で最高点をとるまでになりました。卒業後、小学校教員となり、小学校長も務めました。校歌の作詞などもしましたが、昭和7年48歳で退職し、越佐新報の歌壇選者となりました。更に財団法人「互尊社」の主事となり『互尊独報』の編集を行い、理事長の反町栄一との交誼を深めました。右の短歌は、その当時つくられたものと思われます。

互尊の霊前に蓮の花だけでは寂しいこと。尊敬している互尊には、菊の花と併せて花菖蒲を供えるのがふさわしいのでは、という気持ちを伝えた歌と詠みとれます。

(今井 雄介)

反町大人に

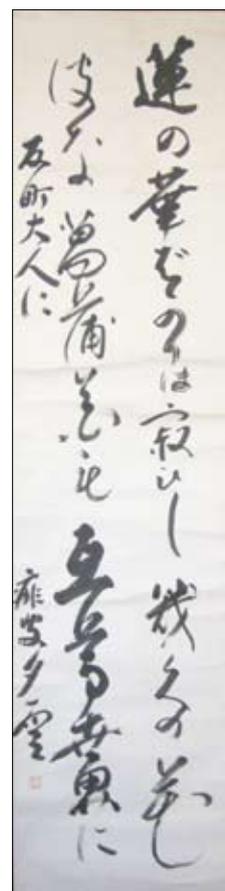
痲叟^{はいそう}

夕雲

(痲叟：暑気あたりの老人)

蓮の華者^は可りは寂ひし 幾久の花
波な菖蒲花毛^も 互尊世界に

蓮の花ばかりは寂し 菊の花
花菖蒲花も 互尊世界に



郷土資料紹介 - 懐かしの風景④ 暮らし -



『ツギイおばあちゃんの思い出ばなし』 山本ツギイ／絵と文 つなん出版

心がホッと温まる…やさしい絵と文で綴られる懐かしの風景。

県内在住でふるさとの伝承に尽力している著者が、幼いころの遊びや風俗、さらには戦争の想いなどを描きます。

ざく、トーコブーコ、髪結い、

肩あげ、あんぼ、ワツアバ割り、ごったく 等々。

ページをめくるたびに、まるでおばあちゃんが隣りで昔話をしてくれているような感覚をみなさんも是非感じてみてください。

(小林 悟)



『聞き書 新潟の食事』
「日本の食生活全集 新潟」編集委員会／編 農山漁村文化協会

大正の終わりから明治の初めにかけての新潟の食生活について解説されています。地域別に春夏秋冬の朝食、夕食が紹介されるなど詳細な内容が読み手の興味を惹きます。さらに、当時の食事を再現したという写真を

見るだけでも人々の暮らしの様子がわかります。

豊かな水と田畑がもたらした自然の恵みを最大限に活かした新潟の食の歴史と文化を感じるこのできる一冊です。

(横山知加子)

今号のテーマ

英語多読^{たどく}コーナー

今回は、中央図書館洋書コーナーに新設した‘英語多読コーナー’をご紹介します。



英語多読とは

簡単な英語で書かれたものから読み始め、少しずつレベルアップしながらたくさん読むという読書法です。完璧を目指すのではなく、文章を分析せずに大意を把握しながら読みます。

多読では、読みやすさでレベル分けされた本を利用します。

多読三原則

英語多読には、楽しく続けるための3つの原則があります。

- 【原則1】辞書を引かない
- 【原則2】わからないところは飛ばす
- 【原則3】つまらなくなったらやめる

コーナーはこんなところ

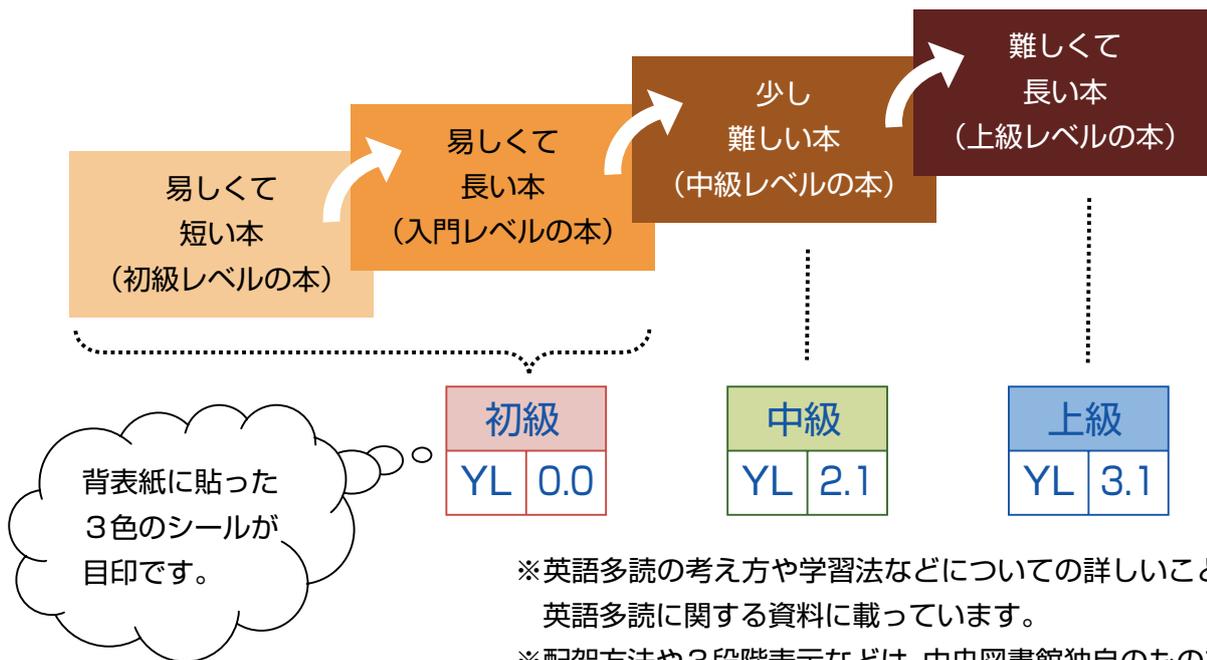
中央図書館の英語多読コーナーでは、多読に適した英語資料を、初級・中級・上級の3段階に分けて配架しています。現在117冊あり、自分のレベルにあった資料を探すことができます。

読みやすさレベル (YL)

YLとは、多読を推進しているSSS英語学習法研究会の定めた、本の読みやすさを数値で表したものです。0.0から10.0までで表され、数が小さいほど読みやすいことを意味します。

中央図書館ではさらに、YLの数値にしたがって次のようにレベル分けしています。

- 初級 … YL 0.0～2.0
 - 中級 … YL 2.1～3.0
 - 上級 … YL 3.1～
- どのような本があるか、ぜひ一度コーナーへ足をお運びください。



※英語多読の考え方や学習法などについての詳しいことは、英語多読に関する資料に載っています。
 ※配架方法や3段階表示などは、中央図書館独自のものです。

イベントガイド（1月～3月）※全て参加無料です。

【読者のつどい】 互尊文庫1階 児童室 19:00～20:30

テーマの本の感想を話し合い、人生観や文学論などを自由に語り合う会です。

1/28(金)『沖で待つ』 絲山 秋子／著

2/18(金) 未定

【子どもの本を読む会】 中央図書館2階 講座室1 10:00～11:30

作者や作品についての感想、テーマの本についての思いを語り合う会です。

1/12(水) 参加者と図書館員のおすすめ本

3/9(水) 春の本

【映画会】 中央図書館2階 講堂 14:00～

1/5(水)「仁義」(1970年フランス、140分)

1/23(日)「スプレンドール」(1989年イタリア、111分)

2/13(日)「戦火のかなた」(1946年イタリア、126分)

3/27(日)「にんじん」(2003年フランス、90分)

【早春コンサート2011】 3月19日(土) 中央図書館2階 講堂 14:00～

弦楽四重奏&ピアノの生演奏に朗読を織り交ぜたコンサートです。今年は、モーツァルト没後220年を記念し、その楽曲を中心にクラシックから歌謡曲まで早春らしいラインナップでお送りします。

定員：180名(先着)

対象：中学生以上

申込：3月1日(火) から中央図書館窓口または電話にて受付開始

図書館ニュース

◆新企画！「借りてビックリ☆としょかん福袋」

中央図書館が総力を挙げて送る国民読書年ファイナルイベントです。

キーワードを手がかりに、さまざまな種類の本・CD/DVDが入った福袋を選んでください。懐かしの本、新しいジャンルとの出会い…どんな中身が入っているかは借りてみてのお楽しみ。

1月30日(日)まで開催



【蔵書点検に伴う長期休館のお知らせ】

2月に所蔵資料の一斉点検を行うため、長期休館いたします。これに伴い、次の期間中、貸出期間を延長し、貸出点数は20点(うち視聴覚資料は6点まで)にいたします。ご迷惑をおかけしますが、皆様のご理解とご協力をお願いします。

図書館名	休館する期間	貸出延長対応期間
中央図書館	2/17(木)～2/28(月)	2/3(木)～2/16(水)
互尊文庫・西・南・北・中之島・寺泊・栃尾地域図書館・大河津地区図書室	2/23(水)～2/28(月)	2/9(水)～2/22(火)

名称	電話	休館日
中央図書館	32-0658	毎週月曜日(祝日の場合は翌日) 毎月の末日 特別図書整理期間
互尊文庫	35-7981	毎週木曜日(祝日の場合は翌日) 毎月の末日 特別図書整理期間
西地域図書館	27-4900	
南地域図書館	30-3501	
北地域図書館	22-7100	
中之島地域図書館	61-2165	毎週月曜日(祝日の場合は翌日) 毎月の末日 特別図書整理期間
寺泊地域図書館	75-5159	
寺泊地域図書館 大河津地区図書室	0256-97-2497	
栃尾地域図書館	53-3005	互尊文庫と同じ
文書資料室	36-7832	
栃尾美術館	53-6300	毎週月曜日(祝日の場合は翌日) ※展示替等による臨時休館あり

~~~~ あとがき ~~~~

コタツに入って本を読む。
雪国の冬の夜は、読書に最適です。
そんなひと時を楽しむ、あなたの1冊をお探しください。(渡辺 茂)

平成23年1月1日発行

編集・発行 長岡市立中央図書館

住所 長岡市学校町1-2-2

編集員 渡辺 茂 渡辺 雄亮 山田 紀子
金安 麻子 岩本 純子

メールアドレス lib@city.nagaoka.niigata.jp

HPアドレス http://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp

印刷 北越印刷(株)